

■S1 群（情報環境とメディア）-7 編（情報倫理・制度）

---

1 章 情報通信と倫理

## ■S1 群 - 7 編 - 1 章

### 1-1 情報通信と倫理

(執筆者：稲葉宏幸) [2011年10月受領]

科学技術が高度に発達し、専門化している現代において、一般市民にとって、様々な科学技術がどのような原理、理論に基づいているのか、詳細に理解することは非常に困難なことである。さらには、それらの科学技術が複雑に絡み合って実現される製品やサービスが、人々や社会・環境にどのような影響を与えるのかを予測し必要に応じて対処していくことはほとんど不可能になっている。その一方で、これら科学技術の成果はわれわれの社会の隅々にいたるまで入り込んでおり、今やこれらの科学技術なしでは考えられないことは明らかである。

このような状況のもと、最近とみに、技術者や研究者の倫理の重要性が指摘されている。

倫理とは、広辞苑によれば、「人倫のみち。実際道徳の規範となる原理。道徳。」とあり、人が正しく生きていく上での道筋や原則を表している。倫理と聞くと難しく思われがちであるが、この意味からは全ての人が考えるべきテーマということになる。なかでも、社会的に重要な役割を担う専門家は社会に与える影響も大きく、より厳しい倫理基準に基づいた行動が期待されることになる。このような専門家のよく知られた例としては、医者や弁護士などがある。一般に、これらの専門家は国家資格によって認定され一定の地位が保証される一方で高い倫理感が必要とされており、倫理に反するような行動に対しては資格が剥奪されるなど厳しいペナルティが科されることもある。

情報通信やコンピュータに関連する技術者や研究者は、その業務を行うために、医者や弁護士のように特別な資格を要するわけではないが、情報通信システムやコンピュータシステムは今や社会のあらゆるところで日常的に使用されており、これらシステムの欠陥や問題点は時として大きな社会的混乱や、重大事故を引き起こす可能性を有していることを考慮すると、専門家である情報通信やコンピュータの技術者や研究者は大きな社会的責任を有していることを自覚すべきであろう。

さて、技術者や研究者が倫理、すなわち、技術者や研究者としての人の正しい道を考えていく上で、最も重視すべき原則は何であろうか。科学技術の目的が人類の幸福にあるということから考えると、技術者や研究者が最も重視すべき倫理上の原則は、公共の利益ということになる。そうして、公共の利益を損なわない範囲で、自身や周囲の人の利益、所属する組織や団体、取引先の利益などを考慮して倫理的な決定を下す必要がある。なお、公共の利益には、地球環境に対する配慮も当然に含まれることに注意しておきたい。

技術者や研究者が実際に携わる業務においては、様々な倫理上のジレンマに直面することも多い。そのような場合には、自身の専門的知識に基づき、様々な可能性を考慮し、その倫理的側面の是非を検討する必要がある。専門家が常にその専門的知識について研鑽しておくことはこのような観点からも重要なことである。もちろん、技術者や研究者が本人だけで判断が難しいことがらに関しては、同僚や上司など周囲の人に相談をすることも必要になろう。そのためには、ふだんから周囲の人々との信頼関係を築いておくこと、特に、専門家として信頼されていることが重要になる。また、組織や部署の責任者の立場にある場合は、管理下にある人々が、上記のような倫理的行動を取れるように、普段から教育、啓発活動に努める

ことが必要であり、そうすることが、倫理的行動を取れる組織づくりにもつながるのである。

情報通信やコンピュータの技術者、研究者にとって特に留意すべき倫理上の観点としては、成果としての製品の品質（社会や環境に対する影響も含む）、情報の公開、不正アクセスに対する留意、知的財産権の尊重、プライバシーや個人情報の保護、機密保持や通信の秘密などがある。

これらのうち、品質の保証に関しては、単に製品などが仕様通りに動作するというのではなく、例えば、仕様そのものに重大な欠陥が認められる場合には専門家としてそれに誠実に対応することまでを含むことに注意したい。また、製品などが使用されるあらゆる環境や状況を想定して、人や物に物理的精神的に危害を加えることがないか留意する必要がある。

情報の公開に関しては、製品などに重大な欠陥が見つかった場合には、それが公共の利益に反しない限り、原則として公開し、必要な措置を講じる必要がある。公共の利益に反するような場合とは、例えば、広く使われている暗号システムの欠点を見出したような場合に、それを公開することによって、多くのシステムが不正アクセスなどの危険に曝されるおそれがあるような場合が考えられる。